

総合スポーツゾーンにおける既存スポーツ施設の整備方針(案)

	施設名	整備年	課題	方針(案)
①	陸上競技場	昭和54年 (築34年)	◆ 補助競技場に改修 (第3種公認陸上競技場基準に適合) ○ 耐震化への対応 ➤ ・既存建物を耐震改修、有効活用 又は ・既存建物を撤去、管理棟を新設	⇒ 既存建物(メインスタンド)を耐震改修し、有効活用 ※ 会議室、研修室、備蓄倉庫等を想定
②	補助競技場	昭和52年 (築36年)	◆ 廃止 ➤ ・敷地の有効活用 (駐車場、バスの転回場等)	⇒ 駐車場やバスの転回場として活用 ※ 交通計画との整合性を図る。
③	硬式野球場	昭和54年 (築34年)	○ 耐震化への対応 ○ 施設の老朽化 (座席、内装、給排水設備等) ○ バリアフリーが不十分 ○ 夜間照明	⇒ メインスタンド及びスコアボードの耐震改修 ⇒ 機能維持のための設備更新 ⇒ 多目的トイレの追加 ⇒ 夜間照明の設置 ※ 公認野球規則に合致 ※ 利用団体は夜間照明設備の設置を要望
④	水泳場	昭和54年 (築34年)	★ 公認50mプールは水深2.0m以上を確保する必要がある。 (日本水泳連盟の指導) ○ 施設の老朽化(プール槽、配管、管理棟、更衣棟等) ○ 観客席数の不足 (国体開催の場合)	⇒ 屋内水泳場を新築し、体育館と合築 ⇒ 国体の開催を見据えた観客席数を確保 ※ 50mプールと飛込(25m兼用)プールを整備 ※ 国体の開催会場は屋内施設が一般的 ※ 体育館との合築により、施設や駐車場の管理運営を行うことが効率的
⑤	トレーニングセンター	昭和54年 (築34年)	○ 施設の老朽化(建物全体) ○ 設備の老朽化(トレーニング機器)	⇒ 現在のトレーニングセンターは廃止 ※ アリーナ機能は、新たに整備する体育館で代替 ※ トレーニング機能は、新たに整備する陸上競技場兼サッカー場及び体育館で充実強化
⑥	合宿所 (管理棟3F)	昭和48年 (築40年)	○ 設備の老朽化 (ベッド、空調、衛生、給排水設備) ○ 利便性・快適性の向上 (1室8人部屋、全和式トイレ等)	⇒ 機能維持のための設備更新 ⇒ 利用環境の改善 ※ 既に耐震性を確保 ※ 運動施設に近接して必要 ※ 競技団体は、収容人数(102名)を維持した上で、存続を要望
⑦	体育館分館 (追加)	昭和53年 (築35年)	○ 機能の維持	⇒ 総合スポーツゾーンの対象区域に追加 ⇒ 機能維持のための修繕などを実施 ※ 既に耐震性を確保 ※ 県体育館の分館としての位置付けであり、総合スポーツゾーンに隣接して立地

◀「課題」欄の凡例▶

「◆」これまでの検討結果 「○」課題 「➤」想定される対応 「★」追加した課題